SHIRETOKO
NATURE FOUNDATION

Shiretoko Nature Foundation

# ANNUAL REPORT
年　次　報　告
# 2024

公益財団法人　知床財団

FSCマーク位置

## 知床財団のMission

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、

・世界遺産知床の自然を守り、
よりよい形で次世代に引き継いでいきます。

・野生動物やその他の自然環境の保全・管理に
携わる組織として常に先駆者であり続け、
人間が自然と親しみ調和していける
社会の発展に寄与します。

## はじめに

2024年度に知床国立公園は指定60周年を迎えました。私たちは中期的な活動指針である「10年プロジェクト」のもとで「知り、守り、伝える」ための取り組みを展開しています。

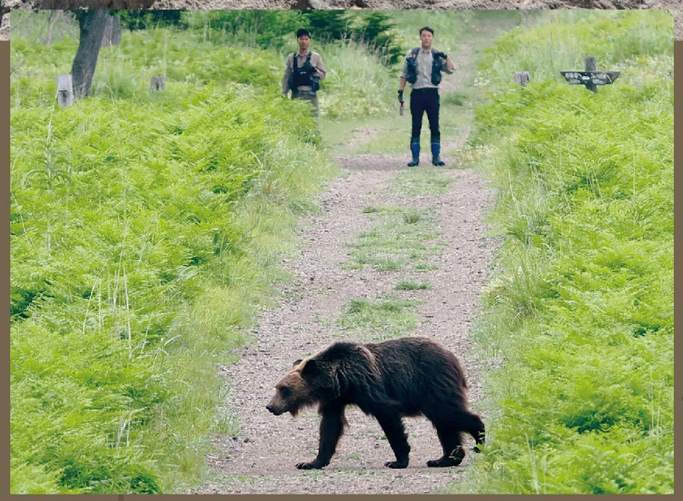
「知る」活動では、知床の新たな魅力を引き出してストーリーを創出するインタープリテーション全体計画策定事業やヒグマの餌資源調査、さらには国内外への研修派遣などによって知床をより深く知るための活動を行いました。

「守る」活動では、全国的にクマ出没や農作物被害が増加する中にあって、知床らしい野生鳥獣対策はどうあるべきか、森や野生動物を守るために何をすべきかなど試行錯誤の連続でした。

「伝える」活動では、日々のカウンター対応や展示に加えてSNSや動画による発信や講演、9月には羅臼町・斜里町・株式会社ゴールドウイン・株式会社スノーピークのコラボによるSHIRETOKO Adventure Festival2024を運営しました。

2024年度も多くの個人・企業の皆さまから温かいご支援をいただきました。これらは私たちにとって大きな励みであり、確かな支えになっています。このレポートを通して私たちの活動の一端をお伝えすることができれば幸いです。

理事長　村田良介



contents


| | |
|---|---|
| はじめに | 02 |
| 知床財団の12ヶ月 | 04 |
| 「知る」活動 | 06 |
| 「守る」活動 | 10 |
| 「伝える」活動 | 14 |
| 事業収支 | 18 |
| いただいたご支援 | 19 |
| 賛助会員 | 20 |


**知床財団 10年プロジェクト**

10年プロジェクトは、知床財団が10年後にめざす姿を明らかにした私たちの羅針盤です。「国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和の実現」、「野生動物と折り合いとつけていく地域社会の実現」、「しれとこ100平方メートル運動の推進」及び「自主・自立の旗を立てる」の4つの大きな柱から成っています。

# 知床財団の12ヶ月 ～2024年度の活動・出来事から～

## 2024

### 4月
- 知る　ライトセンサス（ルサ～相泊・幌別～岩尾別）
- 守る　クマ端会議（斜里・ウトロ）開催
- その他　新年度業務開始　新入職員研修
  第3期ダイキン工業知床世界遺産地域保全事業開始

### 5月
- 知る　スイレン除去作業・モニタリング調査（5月～7月）
  知床岬シカ調査業務（5月～7月）　サケ類稚魚調査
- 守る　クマ活草刈り（5月～6月）　春の森づくりボランティア
- 伝える　クマ授業実施　東京農業大学実習
- その他　第1回理事会

### 6月
- 知る　羅臼地区巡視業務（6月～8月）
- 守る　初夏の森づくりボランティア　イワウベツ川魚類調査
- 伝える　「知床国立公園指定60周年記念シンポジウム
  私たちは自然とどう向き合うか ～知床らしい良質な自然体験と利用の心得～」
  知床羅臼ビジターセンター 知床国立公園60周年記念展示開催
  SUBARU社員研修
- その他　第2回理事会（書面）　定時評議員会　夏期インターンシップ実施（6月～9月）

### 7月
- 知る　カムイワッカ湯の滝運用開始（7月～9月）
- 伝える　北見工業大学実習

### 8月
- 知る　先端部地区利用状況調査　ヒグマ餌資源調査
- 守る　夏の森づくりボランティア　カムイワッカ地区マイカー規制
- 伝える　第42回 知床自然教室

### 9月
- 守る　ダイキン工業ボランティア　JAL北見支店ボランティア
- 伝える　立命館大学実習　北海道大学獣医学部実習　知床ネイチャーキャンパス対応
  SHIRETOKO Adventure Festival 2024開催
  旭山動物園あにまるハッピーマーケット出展　しれとこ産業まつり出展

### 10月
- 知る　ライトセンサス（ルサ～相泊・幌別～岩尾別）
  令和6年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務始動
- 守る　森づくりワークキャンプ　森の集い（植樹祭）
- 伝える　知床サスティナブルフェス開催　ゴールドウイン・サプライヤー企業研修
  ゴールドウイン社員研修　ゴールドウイン共同イベント実施
- その他　第3回理事会

### 11月
- 知る　海外研修
- 守る　イワウベツ川魚類調査
- 伝える　韓国ウォルチュルサン国立公園フェアカンファレンス
  SUBARU社員研修（@本社、座学）
- その他　管理監督者研修

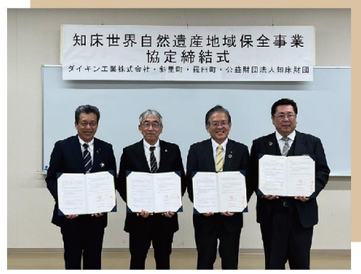
### 12月
- 守る　エゾシカ個体数調整（12月～2月）
- その他　第4回理事会　職員全体研修

## 2025

### 1月
- 守る　冬の森づくりボランティア（1月～2月）
- 伝える　知床の日 記念行事 登壇
- その他　冬期インターンシップ実施（1月～ 3月）

### 2月
- 知る　エゾシカ航空カウント調査
- 守る　ダイキン工業ボランティア
- 伝える　北海道スバル社員研修

### 3月
- 知る　国内研修
- 伝える　ゴールドウイン共同イベント実施　森づくりの道PR動画完成
  しれとこきょうだいヒグマ「ヌプとカナのおはなし」読み聞かせ動画完成
  KINETOKO特別上映会（入館促進キャンペーン）
- その他　第5回理事会




第3期ダイキン工業知床世界遺産地域保全事業開始

## 「知床の環境保全へ」ダイキン工業による支援継続

2011年、ダイキン工業のご支援のもと、知床財団は斜里町・羅臼町とともに四者協定を締結し、知床の自然環境を守る活動をスタートさせました。2016年から2023年までの8年間では、「多様性に富む知床の森を復元する事業」および「世界遺産の価値を守り、伝える事業」の2つの活動に取り組んできました。

そして2024年から始まる第3期協定では、これまでの社会変化を踏まえ、「生物多様性の保全」をキーワードに、「自然の摂理が働く多種多様な森林再生プロジェクト」、「森・川・海の生態系と生物多様性の維持・保全プロジェクト」、「世界遺産の価値を守り伝える次世代育成プロジェクト」の3つの活動に、斜里町および羅臼町と今後10年間にわたって取り組んでいきます。また引き続き、ダイキン工業の従業員の皆さまによる森づくりボランティア活動も実施してまいります。

知床国立公園60周年・世界遺産20周年記念事業

## 2024年は知床国立公園「指定60周年」

知床国立公園指定60周年を記念して、環境省主催のシンポジウムが6月1日に開催されました。シンポジウムでは、2024年に直木賞を受賞した作家・河崎秋子氏による基調講演の後、「私たちは自然とどう向き合うか～知床らしい良質な自然体験と利用の心得～」をテーマに、環境省、斜里町、羅臼町の取り組み事例の発表や、地元高校生を交えたパネルディスカッションが実施されました。

また、知床羅臼ビジターセンターでは、国立公園60周年記念展示「知床国立公園の今と昔」が開催され、知床国立公園の変遷やその魅力を来館者に伝える場となりました。

## 1 知床の価値を考える

# 知床版インタープリテーション全体計画

ワークショップの様子

国立公園満喫プロジェクトに代表される、国立公園のブランディングや誘客の施策が全国的に広がっています。この一環として近年、インタープリテーション（IP）全体計画が注目されています。IP全体計画とは、地域の魅力や価値を来訪者に伝えることを目的に策定されるコミュニケーションのツールであり、国立公園らしい体験を実現するコンテンツの開発やインナーブランディングに活用することが期待されています。

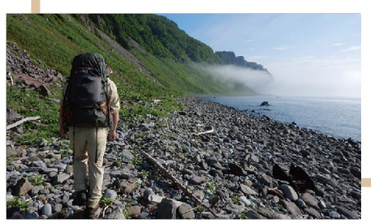
知床国立公園においても「令和6年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務」を環境省より受託し、知床版IP全体計画の策定に取り組みました。2024年度は、IP全体計画の核となる「ストーリー」をまとめるため、住民や観光関係者を対象に、地域の魅力や知床らしさを語り合うワークショップ（WS）を開催しました。多くの参加者からアイディアを集めるため、WSは斜里市街地・ウトロ地区・羅臼地区の3地区でそれぞれ3回ずつ、計9回行っています。WSでは「地域の自慢や知床らしさ」「来訪者に体験してほしいことや訪れてほしい場所」などをテーマに、グループワークを重ねました。参加者は、観光に関わる方のみならず、地元の高校生や農業や漁業の従事者など多岐にわたり、自然はもちろん、歴史や伝統、暮らしや食など各々の生活や職を背景としたユニークな意見が数多く出されました。私たち自身にとっても知床の魅力や価値を再認識するきっかけになりました。

ワークショップのチラシ

本業務では、これらを地域共通のメッセージとして整理し、まとめることを目標としています。また、こうした成果を世界遺産の観光戦略である「知床エコツーリズム戦略」に反映するため、同戦略の見直しにも着手しました。同事業は2025年度も継続される予定です。

## 2 羅臼地区巡視業務 10年プロジェクト

# 知床半島先端部地区の「今」を知る



知床半島先端部地区は、特に原生的な自然が維持されている区域で、一般的な観光利用は想定されていない区域です。しかし、知床岳や知床岬を目指す利用者が年間約200名ほど確認されており、リスク管理の観点からも、現地の詳細な状況把握が不可欠です。

同地区の山岳部にある知床岳（標高1,254m）は登山道が未整備で、標高900m付近からはハイマツなどが密生しています。近年は入山者が減少傾向にあり、2024年度の利用者数も57名程度と平年より少ないことが確認されています。入山者の減少により、ハイマツの密度が高まり、コースも年々不明瞭となりつつあることが明らかとなってきました。知床財団では、今後も定期的な巡視活動を通じてこうした現地の正確な状況を把握し、利用者へ適切な情報発信を継続して行っていきます。

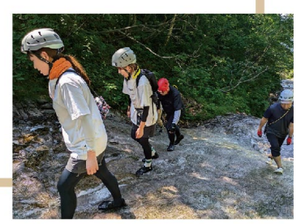
## 3 カムイワッカ試行事業総まとめと今後の運用について 10年プロジェクト

# カムイワッカエリアは次のステージに

カムイワッカ湯の滝では、長く立ち入りが規制されていた1の滝以奥の再利用に向けた試行事業（カムイワッカ湯ノ滝のぼり）が2021年度から続けられています。4年目の2024年度は、試行事業の最終年に位置づけられ、本格運用に向けた評価検証の年でした。

事業期間は7月1日から9月30日までの3ヶ月間とし、webでの事前予約と決済、レクチャーを必須とするなど、昨年度の枠組みを踏襲しつつ本番運用を想定した体制の構築を行いました。また、利用者から要望の多かった専用シューズのレンタルを開始するなど、サービスの改善にも努めました。

事業終了後には4年間の試行事業のまとめを行い、カムイワッカ部会等の地域協議の場で今後の事業のあり方について検討を行いました。2025年度以降は、同事業を本格運用に移行しながら、安全対策のさらなる向上や自立運営に向けた収支改善に取り組むことが決まりました。



## 4 ヒグマの餌資源調査

# 持続可能な調査を目指して

ハイマツおよびミズナラの実は、ヒグマにとって重要な餌資源のひとつです。知床では2023年度にヒグマの大量出没が発生しましたが、その原因のひとつとして、これらの実の成りがともに不作だったことが専門家から指摘されています。ハイマツ・ミズナラの豊凶は知床のヒグマの出没状況を評価するうえで重要な指標です。

知床財団では2019年からミズナラの豊凶の調査を実施しています。2024年もミズナラの豊凶調査を継続するとともに、ハイマツについても豊凶調査を本格的に始動しました。豊凶の定量的な評価には数十年単位で調査を継続してデータを蓄積する必要があることから、今後も調査の持続性を最優先に取り組んでいく予定です。

## 5 知床五湖1湖スイレン ドローンモニタリング

# 園芸スイレンのモニタリング

知床五湖は、知床国立公園岩尾別台地に位置する湖沼で、周囲の深い森や知床連山を投影するその姿は、知床を代表する景観となっています。しかし近年、侵略的外来種である園芸スイレンの繁茂が著しく、特に観光シーズンの夏期には特徴的な景観が失われつつあり、生態系への影響も懸念されています。このような状況を背景に、2024年度から環境省業務の一環として本格的な除去作業に着手しました。

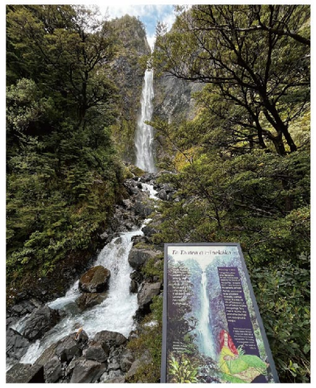
併せて、1湖の水生植物の現状把握と除去効果の検証を目的として、小型ドローンを用いた航空写真の撮影を行いました。1湖の湖面全体のほか、湖面上にモニタリングサイトを4箇所設定し、ドローン撮影による航空写真からスイレンの展開状況を解析したところ、全ての地点で7月上旬から中旬にかけてスイレンの生長が急速に進行する様子が確認されました。今後もこうしたモニタリングに基づき除去計画の提案を行っていく予定です。

## 6 自己啓発研修・海外（ニュージーランド）

# 知床の未来を拓く

2024年11月に実施した研修では2週間にわたり、ニュージーランドの2つの国立公園を訪問し、トレイルの踏査を通じて、整備状況、案内標識、安全対策について視察を行いました。またニュージーランド環境保護省の職員に対し、来訪者への情報提供のあり方について直接聞き取り調査を実施しました。

本研修での学びを活かし、知床国立公園でもオーバーユース対策や、利用者の安全意識や判断力を高めるため、散策路のリアルタイム情報の共有や、利用者に適したルートを提案する機能を備えたアプリの開発など、さらに充実した情報提供のあり方を模索していきたいと考えています。



## 7 自己啓発研修・国内（兵庫・秋田）

# 他地域でのクマ管理を学ぶ

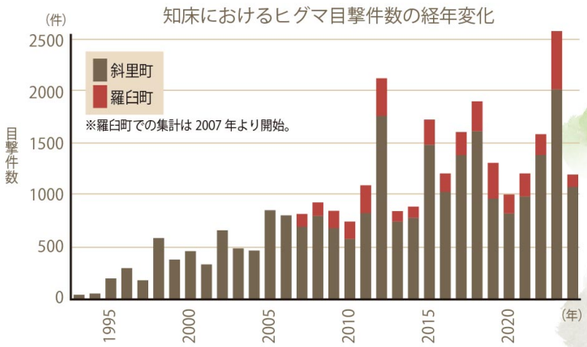
2024年3月、自己啓発研修の一環として、兵庫県と秋田県を訪問しました。両県ではツキノワグマ対策のための専門部署（兵庫県森林動物研究センター・秋田県ツキノワグマ被害対策支援センター）が県に設けられており、クマ対策の先進地として知られています。

兵庫県では、モニタリング結果に基づいた順応的管理や、同じ個体群を持つ他府県との広域連携、集落単位での鳥獣被害対策、ツキノワグマの住居侵入事案についてヒアリングを行いました。秋田県では、被害対策支援センターの現場での役割や、ツキノワグマの住宅地侵入事案における対応事例についてのヒアリング、及び住宅地侵入事案の現場を見せていただきました。

両県ともに知床以上にクマと人との距離が近く、対策の難しさに驚くとともに住民や市町村職員の危機意識の高さにも感銘を受けました。本研修を通して、知床でのヒグマ対策に活かすことのできる有益な知見を得ることができました。

## 1 2024年度のヒグマ管理について

# 全国にひろがる、人とヒグマの関わりかたの課題



2024年度の斜里町内でのヒグマ目撃件数は1,084件でした。ヒグマの大量出没があった2023年度と比較すると減少しましたが、最終的に目撃件数は1,000件を超え、例年並みにヒグマが出没した1年となりました。その中でも、斜里市街地周辺での農地での出没が5件と多く、7月にはヒグマの有害捕獲作業中のハンターがヒグマに襲われる事案も発生しました。幸い怪我は軽傷で済み、当該のヒグマはその場で有害捕獲されましたが、近年同様の事例が3件続いていることが現場の課題となっています。その他、特記事項としては、養鹿施設内のシカがヒグマに捕食される事例や知床五湖高架木道入口付近でオス成獣のヒグマが利用者を複数回にわたり威嚇する事例などが発生しました。

一方、同年度の羅臼町内でのヒグマ目撃件数は116件でした。この件数は、大量出没のあった2023年度も含め過去の平均値より著しく低い値となりました。その中でも市街地でのヒグマの目撃が35件ありましたが、水産加工の残滓や干し魚などがヒグマに荒らされるなどの事案は発生しませんでした。国立公園内では、6月に知床横断道路で有害捕獲となったヒグマがおり、遺伝子分析の結果、過去に車両への接近やドアミラーを壊した疑いのある個体であることが明らかになりました。

このようにヒグマの出没状況は異なりますが、両町では、2024年度も電気柵・草刈りや自動撮影カメラによる監視対応などのヒグマ対策を継続実施しています。加えて、ヒグマをAIにより判別する自動撮影カメラや高性能な機能を持つドローンを導入するなど、新たなツールによる対策の強化を図りました。

人とヒグマとの課題を抱えている地域は知床だけではありません。近年では、北海道や東北地方をはじめ、全国各地でクマによる人里付近への出没と人身被害が増加しています。このような状況を受け、環境省はヒグマを含むクマ類を「指定管理鳥獣（捕獲も含めた管理を必要とする対象動物）」に追加し、曖昧になってきたクマと人との間の境界線を改めて引き直す姿勢を示しています。過去に大量出没を経験した知床も同様に、既存のヒグマ対策のあり方だけではなく「ヒグマとの向き合い方」自体も見直していかなければならない局面となっています。これまで行ってきた対策や普及啓発を一層推進させながらも、知床におけるヒグマの管理・対策の今後のあり方について今一度考え、両町とともにヒグマと折り合いの付けられる地域をつくることが、ヒグマ対策の最前線に立つ知床財団の責務だと考えています。

## 2 ヒグマ対策リーフレット制作業務

# ヒグマとの「ちょうど良い距離感」を目指して

知床を訪れる人々にヒグマとの適切な関わり方を理解してもらうことは、ヒグマ対策の重要なピースのひとつです。知床財団では、公園利用者とヒグマとの間で発生するトラブルや人身事故を未然に防ぐため、指導啓発やルールの普及を目的とした広報物の制作に力を入れています。

2024年度には環境省業務の一環として、ヒグマへの接近やつきまといを行わないようにしてもらうためのルールを伝えるリーフレットやヒグマとの関わり方を楽しく学べるステッカーなどを制作しました。今後は、これらの広報物を国立公園内外の各所で配布し、ヒグマと共存する意識の醸成を図っていく予定です。

ヒグマへの接近の注意を促すポスター（英語版）
© 環境省釧路自然環境事務所

ヒグマと距離をとることを伝えるステッカー

## 3 地域と連携した次世代育成

# 森づくり作業で活躍中！ 斜里高校の地域みらい留学生

北海道立斜里高等学校では、2021年度から「地域みらい留学365」という国内留学制度で他地域からの生徒を受け入れています。

2024年度は東京、愛知、大阪から3名の生徒が年間を通じて森づくりボランティアに参加し、互いに励まし合いながら植樹や遊歩道整備、防鹿柵の修繕などはじめての作業に取り組みました。高校のクラスでは、森づくりの話やヒグマを見た話など、留学生ならではの視点で感じた知床の魅力を積極的に伝えてくれているようです。木を植える体験がしたくて斜里高校への留学を選んだ生徒もおり、世界遺産知床の自然の中で、全国から集ったボランティアと共に森林再生に取り組んだ経験は、今後の財産になることでしょう。将来、大学生や社会人となってからも、再び知床を訪れてくれることを願っています。

## 4 地域の皆様とヒグマについて考える

# 両町でクマ端会議を開催

知床財団では、地域の人たちにヒグマについて理解を深めていただけるよう、さまざまなイベントの企画・運営を行っています。

2024年度には、斜里町にてヒグマの生態や市街地での出没への対応に関する理解を深めるとともに、対策員と地域住民のコミュニケーションを図ることを目的とした「クマ端会議」を2回開催しました。クマ端会議は毎年開催しており、市街地での出没状況や出没時の注意点などについて住民の皆さまに知っていただくと同時に、参加者から寄せられたご意見を今後の対応や情報発信に反映することも意識しています。2023年度がヒグマの大量出没が発生した年でもあったため、ウトロ会場には12名、斜里会場には25名と、例年以上の参加があり、活発な意見交換が行われました。

また羅臼町では、ヒグマの研究を行っている北海道大学獣医学研究院の下鶴准教授および大学院生をお招きし、2023年度の大量出没の原因などについて講演いただきました。講演後には、生活の中で感じているヒグマに対する不安や、ヒグマの採餌行動や個体数に関する質問が多数寄せられ、地域住民の声を直接伺う貴重な機会となりました。

## 5 知床半島外業務

# 新たな業務展開へ 民間所有地でのエゾシカ対策の取り組み

2024年9月より網走市の自動車関連企業（株式会社デンソー網走テストセンター）の所有地でのエゾシカ対策業務を開始しました。広さ約550ヘクタールの敷地には、テストコースのほか、カラマツ林や広葉樹林などの多様な森が広がっています。このような環境の中、コースにシカが頻繁に出没し、テスト車両の走行に支障を来す恐れがあることから、捕獲を含むシカの対策業務の依頼をいただきました。具体的には、月に数回網走を訪れ、現地状況の把握に努めたほか、自動撮影カメラを用いたシカの生息状況調査や実際の捕獲作業などを行いました。

また、この敷地は環境省の「自然共生サイト」に認定されており、同企業では環境保全活動にも取り組まれています。知床財団にとって初の民間企業からいただいた野生動物対策業務となりましたが、今後もエゾシカ対策や保全活動の視点において知床で培った知見を活かしながら貢献していきたいと考えております。

## 6 川の生物相復元を目指して

# イワウベツ川 魚類調査の速報

イワウベツ川における治山ダム改良の効果検証を目的とする、サケ科魚類の生息状況調査を実施しました。調査は知床博物館と東京農業大学北海道オホーツクキャンパスとの共同で行い、2024年度は6月と11月に電気ショッカーを用いた魚類調査を実施しました。

調査の結果、イワウベツ川本流にある改良工事中の治山ダムよりも上流域ではオショロコマの生息は確認できず、局所的にオショロコマが絶滅に近い状況であることが確認されました。今後は治山ダムの改良工事が完了する2026年以降に、ダム下流域からオショロコマが移入し生息状況が回復するかを確認したいと考えています。

## 1 オリジナル絵本が動画に 10年ぶりの人気

# しれとこのきょうだいヒグマ「ヌプとカナのおはなし」の読み聞かせ動画が完成

撮影時の様子
（HTB藤澤アナ、土屋アナ、森アナ、onちゃん）

知床財団とAIRDOは、2006年のAIRDOによる女満別ー羽田線の就航を契機に、ヒグマとの共存を目指した自然保全活動「知床キムンカムイプロジェクト」を共同で実施してきました。これまで、ヒグマに関する授業や講演で使用するトランクキット、知床に暮らす兄弟ヒグマを題材とした絵本『しれとこのきょうだいヒグマ「ヌプとカナのおはなし」』など、普及啓発ツールの制作に取り組んできました。

このたび、北海道テレビ放送（HTB）のご協力のもと、前述の絵本の読み聞かせ動画が完成しました。アナウンサーの皆さまによる朗読は臨場感にあふれ、大人も思わず引き込まれるような高い完成度に仕上がっています。

完成した動画は、AIRDOの機内エンターテインメントサービス「Do Sky On-Demand」のほか、2025年4月にリニューアルオープンした釧路市動物園のエゾヒグマ館や、知床の各施設で上映されています。皆さま、ぜひご覧ください。

## 2 これからの知床を担う世代へ 10年ぶりの人気

# 学生実習受け入れ

昨年に引き続き、2024年度も立命館大学政策科学部の学生受け入れを実施しました。実習は4泊5日で行われ、国立公園の利用の仕組みや、しれとこ100平方メートル運動地における森づくりの取り組みを紹介するほか、地元の民間ホテルと連携してゴミ拾いやワークショップを行ったり、ウトロの小中学校を訪問し子供たちと交流するなど地域の方とも繋がりを持った幅広い内容となりました。

学生たちからは、「知床は自然と人間の共存について深く考える場所であり、知床の自然を未来に残すために自分にできることを考えるきっかけとなった」といった感想など嬉しい声を多数いただきました。学生実習は、知床財団がこれまでに培ってきた知見や経験を次世代へと継承していく、とても大切な機会です。今後もこのような実習を、学生たちの未来、そして知床の未来にとって価値あるものとなるよう、継続して取り組んでいきたいと思います。

## 3 冬の知床自然センターを楽しもうキャンペーン 10年ぶりの人気

# 知床自然センター KINETOKOにて特別上映会を開催

知床自然センター館内にあるMEGAスクリーンKINETOKOにて特別上映会「日本列島生きもの超伝説劇場版ダーウィンがきた！」を3月に開催しました。このイベントは旅行者の方はもちろん、地域の皆さまにもKINETOKOの魅力を体験していただくことを目的に行っています。当日は小さなお子様からご年配の方まで多くの方々に来場いただき、上映を楽しんでいただくことができました。

今後も地域の方々にとっての「楽しみの場」にもなれるよう、知床自然センターを拠点とした様々なイベントを企画していきたいと考えています。

## 4 知床国立公園指定60周年を記念したイベント

# SHIRETOKO Adventure Festival 2024開催！

知床国立公園60周年、世界自然遺産20周年を記念して『Shiretoko Adventure Festival』が9月に開催されました。このイベントは、斜里町、羅臼町に加え、両町とそれぞれ包括連携協定を締結している株式会社ゴールドウイン、株式会社スノーピークの4者が主軸となり実施され、知床財団は事前準備や現地運営に協力しました。

羅臼町では、羅臼オートキャンプ場を拠点に土器カップづくりやガラス玉ペイント、エゾシカオイルキャンドルづくりなど様々なワークショップが実施され、キャンプ場宿泊者には、地元の食材をふんだんに使ったイベント特別企画のスペシャルディナーが提供されました。また、夜は焚火を囲みながら地元漁師やアスリートのお話しを聞く「焚火トーク」も催され、知床財団のスタッフによる「知床のヒグマのおはなし（紙芝居）」もお披露目しました。

斜里町では、知床自然センターを拠点にメガスクリーンKINETOKOを活用したフィルムイベント「バンフ・マウンテン・フィルムフェスティバル」が開催されたほか、THE NORTH FACEアスリートによる「田中陽希と登る羅臼岳」、「写真家・石川直樹と歩く羅臼湖」などのアクティビティプログラムも実施され、全国各地から集まった参加者で賑わいました。2025年も同イベントを開催し、行政と民間、そして知床財団が力を合わせて知床の魅力を発信していく予定です。

## 5 森づくりの魅力をより多くの方へ届ける

# 森づくりの道「開拓小屋コース」のPR動画が完成しました！

開拓小屋コースの存在をより多くの方々に知ってもらい、実際に歩いてみたいと思ってもらえるよう、PR動画を制作しました。この動画はダイキン工業支援事業の一環で制作しました。ドローン撮影により森や知床連山などの自然の壮大さが表現され、森を歩く人々の豊かで繊細な表情も描かれていて、完成度は期待を大きく上回るものとなりました。撮影当日は運よく天気に恵まれ、様々な野生動物の姿を捉えることできました。

完成した動画は知床自然センターで上映中です。お立ち寄りの際はぜひご覧いただき、「森づくりの道・開拓小屋コース」へ気軽に足を運んでいただければ幸いです。

動画は
コチラから

## 6 知床自然センター企画展

# 古きを訪ねて今日を知る ～馬と生きた知床の開拓探訪展～開催

2024年度の知床サステナブルフェスの開催にあわせて、斜里町の開拓の歴史をテーマにした企画展を実施しました。北海道では、大正から昭和にかけて大規模な農地開拓が進められ、斜里町も多くの開拓者が移り住み、知床の地に暮らしを築いてきた歴史があります。本企画展は、斜里町立知床博物館の協力を得て、開拓時代に実際に使用されていた農具や馬具、生活道具などを展示したほか、当時の人々の暮らしや声も企画展の中に盛り込み、来場者が開拓時代の生活を体感できる内容となりました。

展示の中心には、スタッフの手によって制作された「流木の馬」のオブジェが据えられました。高さ約1.8メートル、長さ約2.5メートルのこの馬のオブジェには実際の馬具が装着され、開拓時代の農耕馬の迫力がリアルに再現されました。

「原生の森、太古の自然」と称される知床で、もう一つの側面、「開拓」の歴史に触れることで、来場者にとって古きものから新たな気づきを得て、現代の暮らしを見つめ直す機会となっていれば幸いです。

## 7 知床国立公園の今を海外へ発信

# 韓国で開催された国立公園カンファレンスに参加

2024年11月1日～3日にかけて、韓国南部に位置する月出山（ウォルチュルサン）国立公園で開催された「Wolchulson National Park Fair 2024」に日本代表団の一員として招聘され、現地視察及び講演を行いました。韓国と日本の国立公園管理に関する体制や課題について、現地関係者との活発な情報交換を行い、講演では世界自然遺産に登録されている知床国立公園の背景や、知床財団の取り組みについて紹介しました。また、来場者との交流の中では、台湾から訪れた代表団とも意見交換を行う機会がありました。

日韓両国が共通して抱える課題に直面する中で、国立公園が持つ福祉的・経済的効果に対する世の中の期待の大きさを改めて実感する有意義な訪問となりました。

# 事業収支

2024年度の経常収益額は4億5,743万円でした。そのうち約7割は、主に行政からの受託事業による事業収益です。
また、賛助会費や寄付金に加え、商品販売や講演・研修対応などによる普及研修収益（収益事業）も、独自事業を実施するための貴重な財源となっています。

## 2024年度 決算データ

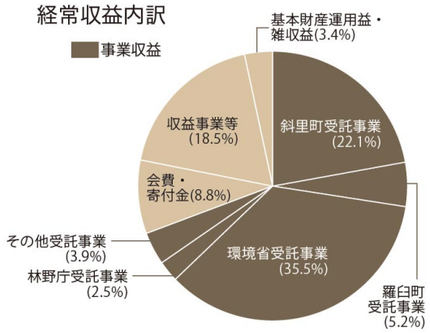
### 正味財産増減計算書（自 2024年4月1日　至 2025年3月31日）

（千円）

| 科目 | | 金額 |
|---|---|---|
| Ⅰ 一般正味財産増減の部 | | |
| 基本財産運用益 | | 1 |
| 事業収益（公益目的事業） | 斜里町委託事業 | 101,303 |
| | 羅臼町委託事業 | 24,011 |
| | 環境省委託事業 | 162,391 |
| | 林野庁委託事業 | 11,540 |
| | その他委託事業 | 18,020 |
| 賛助会費・寄付金 | | 40,112 |
| 収益事業等 | | 84,535 |
| 雑収益 | | 15,518 |
| 経常収益計 | | 457,432 |
| 事業費 | | 443,270 |
| 管理費 | | 11,344 |
| 経常費用計 | | 454,614 |
| 当期経常増減額 | | 2,817 |
| 当期経常外増減額 | | 0 |
| 法人税等 | | 444 |
| 当期一般正味財産増減額 | | 2,373 |

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| Ⅱ 指定正味財産の部 | |
| 受取指定寄付金 | 44,420 |
| 一般正味財産への振替額 | △ 22,048 |
| 当期指定正味財産増減額 | 22,372 |
| Ⅲ 正味財産期末残高 | 198,815 |

### 経常収益内訳




### 貸借対照表（2025年3月31日現在）

（千円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 流動資産Ⓐ | 199,484 |
| 固定資産Ⓑ | 233,993 |
| 基本財産 | 45,000 |
| 特定資産 | 164,393 |
| その他固定資産 | 24,600 |
| 合計 Ⓐ+Ⓑ | 433,477 |

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 流動負債Ⓒ | 173,786 |
| 固定負債Ⓓ | 60,875 |
| ❶ 負債合計（Ⓒ+Ⓓ） | 234,662 |
| 指定正味財産Ⓔ | 132,787 |
| 一般正味財産Ⓕ | 66,028 |
| ❷ 正味財産合計（Ⓔ+Ⓕ） | 198,815 |
| 合計 ❶+❷ | 433,477 |

## 2024年度 主な受託事業一覧

### ■ 斜里町事業

- 知床自然センター他管理業務
- 知床五湖水道施設等管理業務
- ヒグマ管理対策業務
- 自然環境保護管理対策業務
- ヒグマＤＮＡサンプリング業務
- ウトロ市街地電気柵更新業務
- 斜里町鳥獣遠隔監視業務
- 知床ＰＲ動画制作業務
- しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務

### ■ 羅臼町事業

- 知床羅臼ビジターセンター運営業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス運営業務
- シレココプロジェクト推進検討業務
- ヒグマ管理対策業務
- 野生鳥獣及び自然環境保護管理業務
- ヒグマＤＮＡサンプル採取業務
- ヒグマ対策電気柵設置管理業務

### ■ その他

- 北海道・サケ科魚類モニタリング調査委託業務
- パブリックコンサルタント㈱・羅臼川稚魚調査業務
- 北海道農林土木コンサルタント㈱・シロザケ産卵床数等モニタリング調査業務
- 北海道農林土木コンサルタント㈱・サケ科魚類モニタリング調査業務
- 知床サスティナブル実行委員会・知床サスティナブルフェス会場運営業務
- 知床国立公園60周年 世界遺産20周年記念事業実行委員会・知床国立公園60周年 世界遺産20周年記念ウェブサイト制作業務
- 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会・企画運営補助業務
- 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会・シューズレンタル支援業務
- 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会・レンタル備品管理業務
- 知床ガイド協議会・知床五湖当日受付カウンター運営業務

### ■ 環境省事業

- 知床羅臼ビジターセンター維持管理等業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務
- 知床野生動物保護管理対策業務
- 知床世界自然遺産地域科学委員会運営及び調査等業務
- 知床世界自然遺産地域ヒグマ管理に係る検体採取業務
- 知床国立公園ヒグマ対策に係るリーフレット等制作業務
- 知床国立公園エゾシカ対策検討業務
- 知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務
- 知床国立公園（積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務
- 知床国立公園指定６０周年記念シンポジウム運営業務
- 知床半島先端部地区利用状況調査業務
- 知床国立公園知床五湖利用調整地区管理対策等業務
- 知床五湖一湖の景観改善業務
- 知床国立公園水生植物モニタリング調査業務
- 知床五湖フィールドハウス運営管理等業務
- 知床五湖指定認定機関（立入認定手数料）

### ■ 林野庁事業

- 知床地区エゾシカ捕獲緊急対策事業（管理型捕獲）
- 知床ルシャ川等におけるサケ類の稚魚降下数調査事業



# いただいたご支援

2024年度、当法人にお寄せいただいた賛助会費および寄付金の合計額は6,248万円でした。ご支援賜りました皆さまに、心より御礼申し上げます。

## 2024年度 寄付をいただいた主な法人（3万円以上）

（千円・物品）

| | |
|---|---|
| ダイキン工業株式会社 | 9,500 |
| CHAU HOI SHUEN FOUNDATION LIMITED | 7,601 |
| 三井住友ファイナンス＆リース株式会社 | 2,195 |
| 斜里町内法人 | 1,000 |
| 日本コカ・コーラ株式会社 | 838 |
| 株式会社知床グランドホテル | 605 |
| 株式会社アスティー | 600 |
| 株式会社ＡＩＲＤＯ | 520 |
| ワイエスインターナショナル株式会社 | 283 |
| 株式会社アトリエブルーボトル | 100 |
| 特定非営利活動法人 旭山動物園くらぶ | 100 |
| 有限会社アウトバック | 100 |
| 羅臼アポロ石油株式会社 | 50 |
| オリオンビール株式会社 | 50 |
| 三菱食品株式会社 | 50 |
| 男山株式会社 | 41 |
| 株式会社マイルストーン・コンサルティング・グループ | 30 |
| 日本グッドイヤー株式会社 | 公用車タイヤ無償提供 |

（敬称略）

## 企業とともに、知床のために

### ① コラボレーション商品の開発

賛助会員の企業を中心に、私たちの活動に賛同してくださる皆様とコラボレーション商品の開発に取り組んでいます。オリジナル商品の売上は独自事業のための貴重な財源となります。

「土に還る服」をコンセプトにしている「tennen」とコラボレーションしてつくられたオリジナルTシャツ

ヒグマにゴミを荒らされないように開発されたゴミ箱

### ② 物品のご提供

北こぶしリゾート（株式会社知床グランドホテル）様からのご寄付によりヒグマ対策用ゴミステーション「とれんベア」を設置いたしました。

# 賛助会員

当法人の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆さまに支えられております。2024年度には、新たに131名および24団体の皆さまにご入会いただきました。心より厚く御礼申し上げます。

## 2024年度 賛助会員の状況

| 個人年会員 | 個人終身会員 | 法人年会員 | 法人特別会員 | 総会員数 |
|---|---|---|---|---|
| 866名 | 1,115名 | 111団体 | 45団体 | 2,137件 |

## 2024年度 法人年会員

※色字は斜里町・羅臼町の法人会員

| 法人名 | 所在地 |
|---|---|
| 株式会社ユートピア知床 | 斜里町 |
| 株式会社須田製版・釧路支店 | 北海道 |
| ゴジラ岩観光 | 斜里町 |
| 知床オプショナルツアーズSOT! | 斜里町 |
| 有限会社みさき水産 | 羅臼町 |
| 有限会社赤岩水産 | 羅臼町 |
| 羅臼漁業協同組合 | 羅臼町 |
| ウトロ漁業協同組合 | 斜里町 |
| オコツク漁業生産組合 | 斜里町 |
| 株式会社辻中商店 | 羅臼町 |
| 峯浜水産有限会社 | 羅臼町 |
| 有限会社知床ネイチャークルーズ | 羅臼町 |
| 株式会社秀岳荘 | 北海道 |
| 小川建設株式会社 | 羅臼町 |
| ピックス株式会社 | 斜里町 |
| 民宿 鷲の宿 | 羅臼町 |
| 田島公認会計士事務所 | 東京都 |
| サージミヤワキ株式会社 | 北海道 |
| 株式会社小柳中央堂 | 北海道 |
| 小野建設工業株式会社 | 羅臼町 |
| 株式会社ケミクル | 羅臼町 |
| 知床ガイド協議会 | 斜里町 |
| CSEG株式会社 | 東京都 |
| ファームエイジ株式会社 | 北海道 |
| 羅臼石油株式会社 | 羅臼町 |
| 医療法人社団鶴翔会つるい整形外科 | 東京都 |
| 土橋工業株式会社 | 斜里町 |
| 安田商事株式会社 | 斜里町 |
| 株式会社ふれあい | 北海道 |
| 有限会社川上水産 | 羅臼町 |
| 斜里バス株式会社 | 斜里町 |
| ワイエスインターナショナル株式会社 | 東京都 |
| 株式会社キムラシステム | 北海道 |
| 株式会社アヤメ緑化工業 | 北海道 |
| アリス動物病院 | 神奈川県 |
| 株式会社バリュープロモーション | 東京都 |
| 有限会社尾﨑プロパティ | 埼玉県 |
| 斜里建設工業株式会社 | 斜里町 |
| 斜里第一漁業協同組合 | 斜里町 |
| 有限会社雄美 | 千葉県 |
| 有限会社片山電気商会 | 斜里町 |
| しれとこくらぶ | 斜里町 |
| 山洋建設株式会社 | 北海道 |
| 山本電子工業株式会社 | 北海道 |
| 知床サライ | 羅臼町 |
| LIFE FORCE Entertainment株式会社 | 北海道 |
| ワンドリームピクチャーズ有限会社 | 北海道 |
| office albireo | 斜里町 |
| 株式会社クリオ | 東京都 |
| 斜里通運株式会社 | 斜里町 |
| BlueM株式会社 | 北海道 |
| 知床の宿 民宿いしやま | 斜里町 |
| 株式会社セキグチ | 埼玉県 |
| 株式会社藤田工業 | 神奈川県 |
| 有限会社阿保水産 | 羅臼町 |
| 高橋水産有限会社 | 羅臼町 |

| 法人名 | 所在地 |
|---|---|
| Hair Salon YOCKEY | 東京都 |
| 羅臼アポロ石油株式会社 | 羅臼町 |
| 東京シティ日本橋ロータリークラブ | 東京都 |
| 株式会社開発工業 | 斜里町 |
| 株式会社JVCケンウッド・デザイン | 東京都 |
| 有限会社横山測量設計事務所 | 斜里町 |
| 株式会社CreativeFirst | 千葉県 |
| 株式会社CNS | 北海道 |
| どうぶつの内科・皮膚科クリニック | 北海道 |
| 株式会社Bluedirection | 神奈川県 |
| Rujipart Photography | 北海道 |
| 株式会社ナゴウェブ | 愛知県 |
| 株式会社元木金物店 | 斜里町 |
| ホクレン農業協同組合連合会 | 斜里町 |
| STORY LLC. | 東京都 |
| 株式会社RUNWAYS | 東京都 |
| 株式会社Q.E.D.パートナーズ | 神奈川県 |
| 株式会社ライフクリエーション | 北海道 |
| 株式会社アルビノ | 東京都 |
| 株式会社アドアニモ | 静岡県 |
| なみうちぎわをあるこう合同会社 | 斜里町 |
| ブルースタイル沖縄株式会社 | 沖縄県 |
| 株式会社ピコラボ | 福岡県 |
| 株式会社ベストアクティ | 宮城県 |
| BELAY Inc. | 東京都 |
| ポップコーン株式会社 | 東京都 |
| 株式会社アスティー | 東京都 |
| 株式会社Agoora | 東京都 |
| 株式会社35design | 北海道 |
| 株式会社北真 | 北海道 |
| ベストセレクション株式会社 | 埼玉県 |
| 株式会社LOHASTYLE | 東京都 |
| 株式会社キューブコンサルティング | 埼玉県 |
| 株式会社トンデンファーム | 北海道 |
| ゆきすきのくに合同会社 | 東京都 |
| エファタ株式会社 | 東京都 |
| エレファントプラス株式会社 | 兵庫県 |
| 雨宮印刷株式会社 | 北海道 |
| タレントスクエア株式会社 | 東京都 |
| 株式会社トイント | 京都府 |
| クリックアンドペイ合同会社 | 東京都 |
| 株式会社ヒナタヤ | 神奈川県 |
| 株式会社TSUMUGI | 大阪府 |
| エレビスタ株式会社 | 東京都 |
| 有限会社舟木商店 | 羅臼町 |
| 弁護士法人根室法律事務所 | 北海道 |
| AGARUD | 北海道 |
| TechNoam株式会社 | 東京都 |
| 合同会社WOZ | 東京都 |
| 株式会社Liam | 福岡県 |
| 弁護士法人オホーツク北斗 | 北海道 |
| 株式会社エムコネクト | 兵庫県 |
| 株式会社ゼロアクセル | 東京都 |
| 株式会社サンジュウナナド | 東京都 |
| 株式会社コレックホールディングス | 東京都 |

## 2024年度 法人特別年会員

商船三井さんふらわあ
光和メディカルクリニック ヘルスケアセンター
NATURAL
有限会社アウトバック
STANFOOT
THE NORTH FACE
mont·bell
rebake
ファインネクス株式会社
SATOH SEIZAI
City シティ環境株式会社
知床第一ホテル
Elreno Limited
しれとこ斜里
有限会社 エステー精工
AIR DO
Sumitomo Pharma
SKE Smart Key to Enjoy your life
健康は、進化する。 BATHCLIN バスクリン
シモジマ
A
カメラのキタムラ
スタジオマリオ
株式会社 中田建機
地球の健康を見つめる 環境大善
GOODYEAR
wood link FURNITURE & GALLERY
KITAKOBUSHI RESORT
LAN TOKO 知床生態旅遊
Tenchijin SPACE TECHNOLOGIES
SUBARU
No SUBARU, No LIFE, in Hokkaido!! HOKKAIDO SUBARU 北海道スバル株式会社
99 九十九商会
KIJIMA CHILDREN'S CLINIC
知床酒場 ピリカデリック PASTA / PIZZA / BEER CAFE / BAR
JIPCON
富士化学工業
IMUST 株式会社 アイマストホールディングス
三重 医療法人 スワン カイバナ耳科クリニック
汀一郎税理士事務所 SUSAKI TAX-ACCOUNTANT OFFICE
mountain neverland by atelierbleuette
Mother Nature's Son
MILESTONE CONSULTING GROUP
株式会社 一千乃
EXPLORE WILD Hokkaido

# 会員の募集

私たちの活動を応援してくださるサポーターを募集しています。

皆様から募った会費や寄付金は、
知床を未来につなげるために役立てられています。

## 個人

| | | |
|---|---|---|
| ■1年間応援 | 個人会員 | 5,000円/年 |
| ■生涯応援 | 個人終身会員 | 100,000円/生涯 |

## 法人

| | |
|---|---|
| ■法人特別年会員 | 100,000円/年 |
| ■法人年会員 | 20,000円/年 |

入会、寄付の方法については知床財団の賛助会員のサイトをご覧ください。寄付も随時承っております。→ 入会用サイト

知床財団への会費、寄付は所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となり、控除が受けられます。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。

知り

守り

伝える



# 組織概要

| | |
|---|---|
| 名称 | 公益財団法人　知床財団 |
| 設立 | 昭和63年（1988年）9月23日 |
| 設立者 | 斜里町・羅臼町 |
| 基本財産 | 4,500万円 |
| 所在地 | 〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地 |
| 目的 | 知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然環境の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。 |
| 事業 | (1)野生動植物の調査・研究<br>(2)自然保護の普及啓発<br>(3)自然保護に関する諸団体との連携<br>(4)自然環境の保全管理及び公園施設などの管理運営受託業務<br>(5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 職員 | 44名（2024年3月31日時点） |

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

Annual Report 年次報告 2024

発　行：公益財団法人 知床財団
https://www.shiretoko.or.jp

発行日：2025 年 7 月

Illustration：ETOBUNSHA